

未来^眼とうほく 第22回

大震災からの真の復興、そして地方創生へ

国土交通省東北地方整備局は、道路、河川、港湾、空港等の整備・維持管理、防災、災害対応、都市基盤整備の支援などの幅広い業務を通じて、東北地方の社会資本整備に重要な役割を担っている。東日本大震災からの復興に関しても、道路の復旧・整備をはじめとしてその要となっている。

川瀧局長は、本年7月に観光庁観光地域振興課長より着任された。今回で5度目の東北勤務とのことであるが、2011年、東北地方整備局道路部長在任中に東日本大震災に遭遇され、被災地への緊急輸送道路の確保など、復旧、復興の陣頭にたたれた。当時の状況、復興への思い、地方創生と東北地方の社会資本整備のあり方、また、前職の経験を踏まえた観光振興への取り組みなど幅広くお話をお伺いした。

対談に先立ち、東日本大震災などの災害の際に指令塔となる災害対策室を見学させていただいた。「大震災のような場合の対処は、

省庁、部署の垣根をとりはらい縦割りをなくすことが鍵となります」という言葉が強く印象に残った。なお、現庁舎の老朽化により近々移転するため、東日本大震災においてまさに前線指揮所として重要な役目を果たした災害対策室も取り壊され、新庁舎に機能のより充実した新災害対策室が設置される予定である。

「くしの歯作戦」

●町田 先ほど災害対策室を見学させていただき、東日本大震災発生時のビデオを拝見して、改めて津波の猛威と被害の大きさがくぜんとしました。局長は当時の道路部長として緊急輸送道路の確保、復旧の陣頭にたたれたわけですが、まず、発生直後の状況をお伺いしたいと思います。

●川瀧 地震発生直後に仙台空港からヘリコプターを飛ばしましたが、仙台空港もその直後に津波により水没したため、間一髪のところでした。空からの状況確認により、一刻も早く沿岸被災地へ救命と物資搬入のため、緊急車両が通行できる通路を確保することが最優先の課題と認識しました。

このため「くしの歯作戦」として東北道、国道4号の縦軸を確保したうえで、そこから沿岸への緊急通路を開くことに集中しました。沿岸部の道路はがれきで埋まっていたため、かねてから災害協定を結んでいた地元の建設業者の協力もいただきがれきを取り除き、緊急車両が通行できるルート震災翌日に11ルート、3月15日には15ルートを確認しました。あらかじめ橋梁の耐震補強を行っていたため、地震による橋の崩落を防ぐことができ、これも早急に通路の確保ができた要因の一つとなりました。

●町田 極めて迅速な対応がなされたわけですが、緊急通路の確保以外にもいろいろなご苦労があったことと思います。

●川瀧 被災した自治体への人、通信などの地域支援も重要でした。発生直後は、インフラ復旧の要望より、「人の命」にかかわる現場からの要望がほとんどでした。日用物資の調達、配給など、国交省の管轄外のことも

ありましたが、当時の徳山局長のもと、被災された市町村の総合窓口として、すべてのことに対応しました。省庁の縦割りを超えて関係者が一丸となって対処したことは、得難い体験でした。

復興は順調だが、いまだ道半ば

●町田 今回2年ぶりに局長として東北地方整備局に着任されましたが、震災からの復興状況についてどのようにお感じでしょうか。

●川瀧 7月に着任以来、三陸地域ほかいろいろな現場をまわりましたが、復興は順調に進んでいます。直轄国道については全体の99%まで本復旧が進み、河川、海岸の堤防も復旧が進んでいます。直轄港湾施設については、一部の防波堤を除き完成しています。

ただし、復興はいまだ道半ばと思っています。引き続き地元のみなさんと連携して着実に復興を進めていきたいと考えています。先日(9月10日)の関東・東北豪雨にもみられるように自然災害が激甚化しており、復興に注力することはもちろんですが、危機管理、防災の重要性も改めて認識しました。

●町田 東南海地震、首都直下型地震などの大地震発生の可能性も取りざたされています。局長は、阪神淡路大震災の際には建設省道路局で復旧、復興にあたられた経験もお持ちとのことですが、東日本大震災、阪神淡路大震災などの貴重な経験が全国的な防災、減災の面でどのように活かされているのでしょうか。

●川瀧 道路などの社会インフラに対する耐震補強を全国的にやっています。先ほども申し上げましたが、東日本大震災について言えば、あらかじめ橋梁の耐震化を行っていたため、橋の落下などの致命的な被害を防ぐことができ、緊急通路の早期確保につながりました。このような対策をあらかじめやっている、やっていないで災害発生時には大きな違いがでますので、地味ですが必要な対策を粛々とやっていくことが重要です。政府も民間も震災の経験を忘れずに地道に対策をしていくことが大切ではないでしょうか。

東北での社会資本整備の必要性

●町田 想定外ということで逃げたはいけない、最悪のことを考えておかないといけないということですね。当時から、単なる復旧にとどまらず、真の復興を目指すという事をお話になっておられました。復興という点からすれば、これからお考えになっていることも多

いのではないかと思います、その辺りについてはいかがでしょうか。

●川瀧 東北地方は、人口減少、高齢化等厳しい状況です。必要な社会資本の整備をしっかりと行って、復興からさらに前に進むお手伝いをしていきたいと考えています。

●町田 東北地方は、全国の面積の20%を占め、農業の地盤も豊かです。一方で、岩手県知事であった増田さんが主宰する日本創成会議の調査・研究によれば、人口減少、とりわけ若い女性の減少により東北地方の市町村のほとんどが消滅の危機にあるとのこと。

今後一定以上の人口規模を維持していくためには、地域の活性化が不可欠です。そのためには道路などの交通インフラの充実が極めて重要だと思います。首都圏と結ぶ縦の交通インフラの整備は進みましたが、これからは太平洋側と日本海側を有機的につなぐ横の交通網が非常に重要と考えます。中長期的な社会資本整備の計画ではこの点はいかがでしょう。

●川瀧 秋田県庁に2年間出向したことがあり、また、母方の祖先が鶴岡出身ですので、東北地方には親しみを感じています。そこでの印象なのですが、例えば秋田の過疎の村でもお年寄りのみなさんは、大都市の老人の方と比べても大変元気で、現役として生き生きと働いておられます。

東北地方は、農業、エネルギー、豊かな自然、おい



川瀧 弘之 (かわたき・ひろゆき)

1985年早稲田大学大学院修了。同年建設省(現国土交通省)入省。1998年秋田県土木部道路建設課長。2003年関東地方整備局道路企画官。2011年東北地方整備局道路部長。2013年観光庁観光地域振興課長等を歴任。2015年東北地方整備局長就任。



町田 睿 (まちだ・さとる)

1938年秋田県生まれ。東京大学法学部卒業後、富士銀行に入行。同行取締役総合企画部長、常務取締役を経て、1994年荘内銀行取締役副頭取、95年取締役頭取、2008年取締役会議長を歴任。09年10月よりフィデア・ホールディングス取締役会議長、北都銀行取締役会長、11年6月より荘内銀行取締役相談役、12年6月よりフィデア総合研究所理事長をそれぞれ務める。12年4月より2年間、東北公益文科大学の学長を務め、14年10月に同大名誉教授の称号を授けられた。



東日本大震災発生当日の災害対策室
(写真提供：東北地方整備局)

しい食べ物などいろいろなポテンシャルがあると思います。一方で、奥羽山脈により日本海側と太平洋側の2ブロックに地理的に分断されており、しかも冬には雪が往来を妨げます。議長がおっしゃたように、これを道路でつなぐことにより、2つのブロックの連携が深まり新たな発展が望めるのではないのでしょうか。首都圏との連携とともに日本海側と太平洋側の横軸連携を今後進めることが必要だと思います。

●町田 アジアの時代といわれていますが、東アジアから北米への海運航路は日本海を通るため、日本海側の酒田や秋田の港には地理的優位性があると思います。これを生かすためには、まず港の集荷能力を高めることが重要と考えます。また、地域の活力をあげてゆくためには経済の広域化が必要です。こうした点からも道路、鉄道の交通インフラの充実が必要だと思います。奥羽本線、羽越本線の新幹線化もぜひ実現してほしいところです。

政府、自治体の財政状況から、社会資本整備には厳しい環境ですが、民間は金余りの状況で、私ども金融機関もリスクをとって積極的に社会資本整備に貢献できるようにすることが必要と考えています。

●川瀧 東北地方は、国全体からみると人口・経済規模が相対的に小さいため、社会資本整備の優先順位が大都市に比べ低くてもよいのではという意見があります。将来を展望した場合、国土全体の観点から、東北地方における交通インフラをはじめとする社会資本整備の重要性を語っていただくような声をあげていただくことを期待しています。これからの社会資本の整備には、民間の力も必要です。

地方創生への積極的取り組み

●町田 私どもフィデアグループには山形を基盤とす

る荘内銀行と秋田を基盤とする北都銀行があり、地方創生に両行を含めたグループ全体として積極的に取り組んでいるところです。

北都銀行を例にあげますと、銀行の基本方針を地方創生一本に絞って、頭取を委員長とし全支店長を委員とする地方創生委員会を作り全力をあげています。また、地方創生にはあらゆる層の方々に参画していただくことが重要ですので、地域ならびに中央の有識者で構成する地方創生アドバイザーボードを発足させています。これらを通じて、今後、県などへ積極的に提言していくつもりです。

●川瀧 素晴らしい取り組みだと思います。地方のシンクタンク的な役割は、地元の銀行や電力会社等が担っておられると思います。地域インフラの整備を含めて、より一層積極的に提言をしていただくことを期待したいと思います。

地方創生における観光の重要性

●町田 荘内銀行本店は鶴岡にありますが、庄内地方には山岳信仰の出羽三山、曹洞宗の善寶寺など宗教関係の史跡も大変良いものがあります。また、秋田は祭りなどの重要無形民俗文化財の数が全国一ということです。

ここ数年、政府の積極的な取り組みもあって、外国からの訪問客が急増しています。しかし東北地方は観光資源が豊富にもかかわらず、震災後特にインバウンドの外国人観光客が極めて少ないようです。局長は、前任が観光庁観光地域振興課長と伺っていますが、インバウンドの外国人観光客の増加にどのように取り組んでいったらよいとお考えでしょうか。

●川瀧 観光庁ではまさにその課題に取り組んでいます。観光業は、単に観光施設、宿泊施設、土産物屋にお金が落ちることだけではなく、地方創生にとっても非常に重要です。観光客の多さは、地方の元気印の指標といってもよいと思います。

確かに、東北地方を訪れるインバウンドの外国人観光客は少ないのが現状です。一方、単に弾丸ツアーで有名観光地、名所だけを回るより、普通の日本をじっくり見たい、体験したいという外国人観光客も多く、将来性があると思っています。そのニーズを満たすためには、各地が連携して広域化、周遊化することが必要です。まだまだ工夫が十分ではありません。

●町田 インバウンドの外国人観光客を短期移民としてとらえ、長期滞在型にしていく努力が必要ですね。

ただし、その際に問題となることのひとつが宿泊施設です。例えば秋田の大曲の花火は素晴らしいのですが、泊まる場所が少ないため、潜在的な観光客を逃しています。長期滞在で住民と長い関係が築けるように、民泊等で積極的に受け入れることも考えていかなければならないと思います。

●川瀧 これは、一般論になりますが、民泊は特区で特例として認められています。無制限に、民泊で外国人観光客を受け入れると防犯などでネガティブな面もでてきますが、2020年の東京オリンピック・パラリンピックにむけて宿泊施設の充実は不可欠であり、これをすべてホテルの新設でまかなうことは現実的ではありません。

古民家を再生して宿泊施設とすることも考えられます。観光業を対象とした地方創生ファンドも組成されているようですが、金融面からの支援もさらに必要ではないでしょうか。観光施設の老朽化も進んでおり、この更新も観光客増強には重要となると思います。

●町田 人口減少による地方自治体の消滅論は先ほども申し上げましたように、増田さんが火を付けたわけですが、あれほどまでに悲観的に考えることはないと思っています。いずれ外国人の受け入れが増えていくと思うからです。今までは、正面きって「賢い移民政策」を論じるということがありませんでしたが、そろそろ真剣に考えていかなくてはならないと思います。

●川瀧 ラグビー W杯の日本代表チームをみても、また、大相撲の世界でも外国出身者が活躍していますが、もはや、あまり違和感がありません。現在でも何10万人という外国人観光客が常時滞在しており、これはまさに「短期移民」的な形で人口減少を補っているとも考えられるのではないのでしょうか。

●町田 人口が減って何が問題なのかという人もいますが、何とんでも生産年齢人口が減少して人手不足感が急速に強まっています。

●川瀧 確かにそうですね。建設業界でも外国人の力を借りなければ成り立たなくなっています。銀行ではいかがですか。

●町田 メガバンクはグローバル化していますが、地方銀行の場合は、海外展開がまだ限定的で外国人行員の数は多くはありません。私どもでは現在タイと台湾に拠点を設けて、現地の優秀な人を採用していますが、今後、外国人行員も徐々に増えていくと思います。

●川瀧 これから地方銀行も変わっていくことですね。金融とわれわれのようなインフラ整備部局と一緒にやっていければよいと思います。



緊急輸送道路の確保作業（道路啓開）
(写真提供：東北地方整備局)

●町田 金融も他業態からの進出もありどんどん変化していますが、これがマネーゲーム化すると良くないわけで、モラルが極めて大切だと思います。今後、生活インフラ、交通インフラの整備や老朽化への対策に民間の知恵と力を出していくことが必要と考えています。よろしくご指導をいただければと思います。

東北人には「底力」がある

●町田 最後に、お仕事の指針などにされている座右の銘がございましたらお伺いしたいのですが。

●川瀧 座右の銘といったものは特になのですが、「底力」という言葉が好きです。震災からの復興でも感じるのですが、東北地方の人々には本当に底力があると思います。

東北地方は豊かな自然などいいものがたくさんそろっています。逆説的ですが、今まで隔絶されていたから良いものが残っているわけで、これをうまく活用すればインバウンドや国内観光にも使え、そのポテンシャル、底力はすごいと思います。

私自身は神奈川県の出身ですが、先ほども申し上げたように母方の先祖は庄内藩士の出で、出羽三山神社に仕えた者もいるとのことで、先祖のお墓も鶴岡にあります。そんな縁もあって東北地方には親しみを感じています。今後、東北の底力がますます顕在化していくことを期待しています。

●町田 人口減少、少子高齢化のなかで東北地方が活力を取り戻すには、民間も国と連携して知恵と汗を出していくことが大切だと思います。局長は、東北地方のことをよくご存じであり、また、いろいろなご経験をお持ちで、私どもとしても心強いかぎりです。本日は、お忙しいところ貴重なお話をありがとうございました。